

ワーキンググループでの検討事項

目標：物質収支の把握、精度向上

H22年度

①
流入負荷量
把握の
精度向上

山林系原単位を整理する

②
湖底と湖水の
物質収支の
検証

プランクトン種の出現頻度の把握する(B)

D-CODと植物プランクトンの
関係を把握する(G)

植物プランクトンの存在比を把握する(E)

難分解性有機物の量を把握する(H)

塩分成層と貧酸素濃度の変動について把握する(I)

底質の性状を把握する

地形データの精査等により、
塩分再現性の向上を
検討する

STDデータを利用して、
塩分再現性の向上を
検討する

③
シミュレーシ
ョンモデルの
構築、活用

2000～2011年の気象等の
データを入力する

H23年度

斐伊川からの負荷量をLQにより把握する(A)

事業場系原単位等の整理する

H24年度

とりまとめ

H25年度

とりまとめ

とりまとめ

とりまとめ

365日調査結果等を利用し、
水質再現性の向上について
検討する。

H26

第6期湖沼水質保全計画の策定

現状認識・課題抽出